氏名　岡 慶 五 郎

学位の種類　医 学 博 士
学位授与番号　乙 第 201 号
学位授与の日付　昭和41年12月31日
学位授与の要件　博士の学位論文提出者
（学位規則第5条第2項該当）

学位論文題目　**制癌剤の局所灌流療法における薬剤併用効果に関する研究**

論文審査委員　教授 砂田輝武　教授 田中早苗　教授 山崎英正

学位論文内容の要旨

人工心肺装置を用い，悪性腫瘍に対する局所灌療法について，制癌剤の強化並びに副作用防止を目途としてMMCと非制癌剤であるSarvinal，Ipsilon および Bromelain を併用して実験的研究並びに臨床応用を行った。

1) マウスの背部皮内に移植したMH134腫瘍の増殖に及ぼす影響についてみると，MMCとSarvinalを併用した場合では腫瘍移植5日前よりSarvinalを使用した実験群において，腫病の発現，増大に対する著明な抑制効果が認められた。この場合MMC単独群では対照群と差がみられず，Sarvinal単独群ではかえって腫病の発育の促進が認められた。

MMCと Ipsilon を併用した場合の腫病の発現と増大について検索した結果，対照群との間に有意の差が認められず，Ipsilon 単独群においても同様な成績が得られた。

Bromelain を併用した結果においてもそれぞれの間に有意の差が認められなかった。

2) 家兎後肢にBrown-Pearce腫瘍を移植し，後肢灌流を行ない，各種薬剤の腫病の増大に及ぼす影響について検索した。MMCを使用した場合では，著明な腫病の増大の抑制効果が認められたが，3種の薬剤をそれぞれ併用してもとくに変りがなかった。Sarvinalのみは単独に使用した際に軽度な抑制効果が認められた。

組織学的に検索した結果，MMCとSarvinalを併用した場合には，腫瘍効果の増強はみられなかっ

たが，副作用の軽減が認められた。Bromelain を併用した場合には，増大に対する抑制効果もなく，組織像においても対照と比較して変化がなかった。

3) 本法の臨床応用例は 8 例(8 回)で，鎖骨窩動脈灌流 3 例，腹部大動脈灌流 2 例，大腿動脈灌流，外腸骨動脈灌流各 1 例である。診断別は悪性腫瘍 2 例，線維肉腫 2 例，骨肉腫 1 例，肺癌の肩胛骨転移例 1 例，直腸癌再発 1 例，Amelanotic melanoma 1 例となっている。8 例中 2 例は切断術を併用した。例の 5 例は根治手術不能例もしくは再発例で姑息療法として本法を施行し，残りの 1 例は灌流療法により著効が認められそれのみにとどめた。

局所の合併症として 8 例中 2 例に一時的な灌流域の浮腫，紅斑がみられたが，他の 6 例には何等の副作用を認めなかった。骨髄機能障害としては，8 例中 2 例に白血球，血小板の減少がみられたのみであり，その他肝機能障害，消化管障害等はほとんど認められず，重篤な副作用はみられなかった。

悪性腫瘍に対する局所灌流療法について，制癌剤の強化並びに副作用防止にはMMCとSarvinal, Ipsilon の併用がもっとも有効で合理的な方法と考える。

論文審査の結果の要旨

本研究は，悪性腫瘍に対する局所灌流療法における制癌剤の強化ならびに副作用防止について研究したものであるが，非制癌剤である Sarvinal, Ipsilon 等の併用の効果について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。